

企画展「多賀のワニ化石とその仲間たち」

令和6年(2024年)3月2日(土)～4月7日(日)

約180万年前のアケボノゾウが多賀に生きていた時代の多賀の古琵琶湖層群からワニの化石もみつかります。日本でみつかった代表的なワニ化石をいくつか紹介します。マチカネワニ化石なども多賀町にやってきました。それらを通してアケボノゾウの時代にすんでいた多賀町のワニの謎に迫ります。



企画展のパンフレットには多賀町の化石のほかマチカネワニやヤゲワニ、キシワダワニなど日本の鮮新世から更新世の化石の産出場所が示されています。

多賀町で見つかったワニ化石(古琵琶湖層群 約180万年前)とその特徴



マチカネワニ(約50万年前)の復元骨格と生息環境



美術工芸展示室でマチカネワニの説明と化石の展示⇒



マチカネワニの仲間たちの化石の展示



ワニ化石展示 ワニ300万年史の説明
マチカネワニの来た道と進化や琵琶湖の生い立ちと古琵琶湖層群のワニ化石の位置の説明



ヤゲワニ(約35万年前)やキシワダワニ(約60万年前)の展示



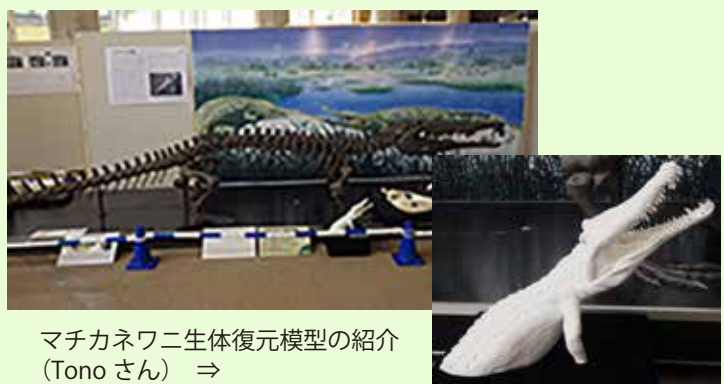
ワニたちのあけぼの 三畳紀から新第三紀のワニ化石



ワニの鱗板骨の説明



ヨウスコウワニなどアリゲータ科のワニ化石



マチカネワニ生体復元模型の紹介 (Tonoさん) ⇒



多賀のワニ化石がいくつも発掘された"多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト"の調査



今回の企画展でマチカネワニ化石とアケボノゾウ化石多賀標本の復元骨格がならんで展示されました